

学級会スタンダード

輪番制で

司会グループ

学級全体

事前

- ◆議題集め
→学級会コーナーに「お話のたね」「議題箱」を設置したり、議題作りの時間をとったりする。
- ◆議題決定、柱をしぼる
→話し合いが焦点化できるよう具体的な議題や柱の表現をする。1～2時間話し合って実践できる内容にするため、その他は朝の会等も利用して決めておく。
- ◆議題を知らせる
→朝の会や帰りの会で議題、提案理由、柱等を説明し、学級会カードを配るようにする。
- ◆話し合いの準備
→学級会コーナーに次の学級会の内容を掲示することで、先を見通せるようにする。
→司会台本を活用してリハーサルを行い、話し合いの流れを理解させる。

- ◆議題の条件
→学級の生活をよりよくするためにみんなで考えたいこと
→学級生活をより楽しくするためにみんなで協力してできること
→自分たちで協力して実践できること（条件は、事前に明らかにしておく…時間、場所等）
- ◆学級会カードへの記入
→学級会カードに事前に自分の意見を記入させることで、自分の意見をもって参加できるようにする。また、教師がコメントを書いたり、個別に言葉をかけたりして発言も促す。

話し合い

- ◆学級会時計の活用
→残り時間を示す時計を用意し、児童に時間を意識させて話し合わせる。
- ◆集団決定の方法の共通理解
→賛成だけ（5個以上[目安]）・・・決定
賛成、反対意見がある・・・多数決
反対・・・多数決からも外す
*話し合いの内容によって臨機応変に行う。
- ◆話し合い中の教師の助言・終末の助言
→話し合い中は、タイミングよく、適切に助言を行う。…人権、教育課程、危険、金銭や物品の負担、生活指導上の問題等にかかわる内容の場合は指導する。
→終末の助言は、具体的な場面を取り上げ、賞賛する。…自分たちで話し合いができたこと・司会グループ・個性の伸長・集団に寄与する言動・次への意欲や見通し等

- ◆話し上手、聞き上手
→「話型」を掲示し、自分の考えを示したり、賛成・反対の意見を述べたりするときに、参考にさせる。高学年では、「折り合いをつけるための話型」を掲示しておき活用する。
→「聞き方あいうえお」を掲示し、常に意識させる。
- ◆ハンドサイン（中学年以上）
→賛成・反対・補足等を示すハンドサインを決め、意志表示をすることで参加できるようにする。
- ◆振り返りの時間の確保
→学級会カードに自己評価や、他者の良い発言や頑張りを記入し、互いに認め合えるようにする。
- ◆歌を歌う
→学級会のはじめやおわりに「学級会の歌」や「学級の歌」を歌う。

事後

- ◆次の司会グループへの引き継ぎ
→課題等をノートにメモし、次の司会グループに引き継ぐ。

- ◆実践への準備、実践
→計画的に準備をさせる。
→実践では話し合ったことが実行されているか、それぞれの役割を果たしているかなどを評価する。

